

Chatham House Online Archive

「太平洋問題調査会国際会議議事録」と「諸外国新聞報道レビュー」

センゲージ ラーニング株式会社 Gale

2013年5月のKINOLINE Vol. 34 No. 3で[チャタム・ハウス・オンライン・アーカイブの概要](#)をご紹介しましたが、今回は本データベースに収録されている特定の資料に焦点を当てて、ご紹介します。

チャタム・ハウス・オンライン・アーカイブ

イギリスのシンクタンク、王立国際問題研究所(チャタム・ハウス)の刊行物、未刊行資料、音声資料をデジタル化した全文データベース。

1920年から1979年までの資料を収録するModule 1と1980年から2008年までの資料を収録するModule 2で構成されています。



チャタム・ハウスは、イギリスのシンクタンクで、結果的にイギリス政府の政策に影響を及ぼすことはありますが、特定の政党や政府と結びつくことはなく、組織としては中立を標榜しています。その一方で、イギリスに限らず世界の幅広い地域を取り上げ、政府の政策に直接コミットすることもあります。本稿では、前者の収録資料例として、「Institute of Pacific Relations Conferences」(太平洋問題調査会国際会議議事録)を、後者の例として「Weekly Review of the Foreign Press」(諸外国新聞報道週次レビュー)を取り上げます。

◆太平洋問題調査会国際会議議事録 Institute of Pacific Relations Conferences◆

Institute of Pacific Relations(太平洋問題調査会)は、1925年に開催されたハワイの民間会議の場で設立された国際組織です。ハワイの会議は太平洋において緊張が高まりゆくのを懸念するハワイの実業家らにより提唱され、キリスト教青年会(YMCA)により開催されました。太平洋問題調査会の目的は、太平洋沿岸の国々が置かれた状況と国際関係を研究することであり、オーストラリア、カナダ、中国、フランス、イギリス、日本、ニュージーランド、フィリピン、アメリカ、ソ連の各国の団体が加盟していました。チャタム・ハウスはイギリスの加盟団体でした。調査会は季刊誌Pacific Affairsで研究成果を発表したほか、太平洋の諸問題に関する各国の個別研究の後援、複数の国で同時に行われている研究の調整を行なうことを任務としていましたが、もう一つ、極東の問題を討論するための非公式の会議を定期に開催することを重要な任務としていました。本データベースには、太平洋問題調査会の国際会議の議事録が収録されています。(第1回会議の会議録は収録されていません)

第1回会議: ホノルル(1925)

第2回会議: ホノルル(1927)

第3回会議: 京都(1929)

第4回会議: 杭州・上海(1931)

第5回会議: バンフ(1933)

第6回会議: ヨセミテ(1936)

第7回会議: ヴァージニア・ビーチ(1939)

第8回会議: モントランブラン(1942)

第9回会議: ホットスプリングス(1945)

第10回会議: ストラトフォード・アポン・エイヴオン(1947)

第11回会議: ラクノー(1950)

第12回会議: 京都(1954)

第13回会議: ラホール(1958)

Institute of Pacific Relations の会議議事録を検索する

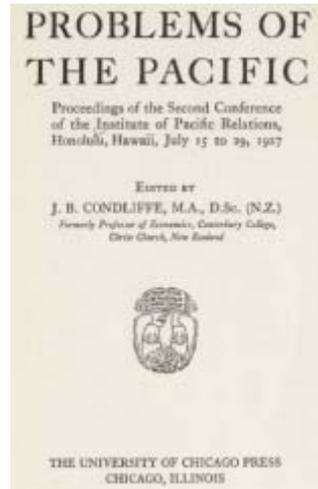
1. 詳細検索画面で出版物の種類を”Conference Series”と指定。
2. ”Institute of Pacific Relations”を指定。

Tagged with [▼] Publication Type [▼] Conference Series [▼] All [x] Chatham House conferences Institute of Pacific Relations British Commonwealth Relations Conference

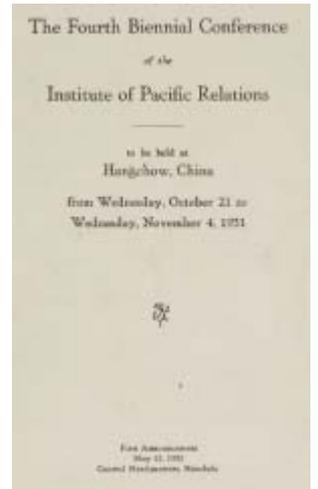
Tagged with [▼] Country [▼] Select a term [▼]

会議のペーパーや議事録から、以下のような人物が会議に参加していたことが分かります。

- ・アーノルド・トインビー
- ・ジョゼフ・チェンバレン
- ・ハーバート・ノーマン
- ・ジョージ・サンソム
- ・リチャード・ヘンリー・トニー
- ・ハロルド・イニス
- ・ウォルター・リップマン
- ・ヘンリー・フォーブス・アンガス
- ・オリヴァー・エドウィン・ベーカー
- ・ラルフ・バンチ
- ・アーサー・ライマン・ディーン
- ・ピエール・グルー
- ・井上準之助
- ・胡適
- ・上田貞次郎
- ・陳衡哲
- ・猪谷善一
- ・毛沢東
- ・高柳賢三
- ・新渡戸稲造
- ・蠟山政道
- ・芦田均
- ・岡義達
- ・松岡洋右
- ・京極純一
- ・鶴見祐輔
- ・東畑精一

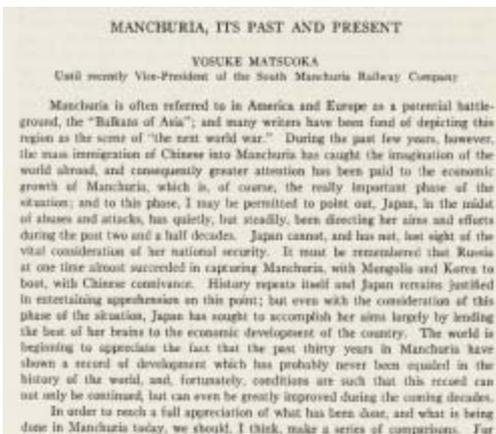


第 2 回会議議事録

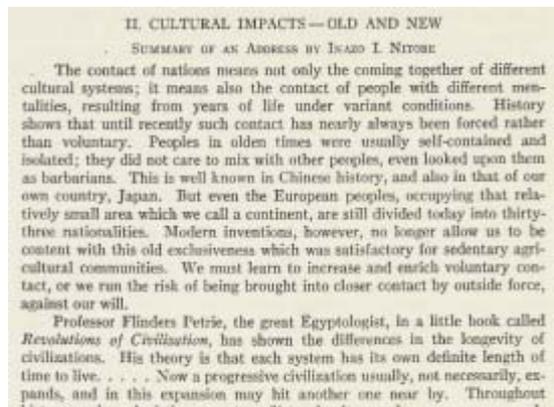


第 4 回会議議事録

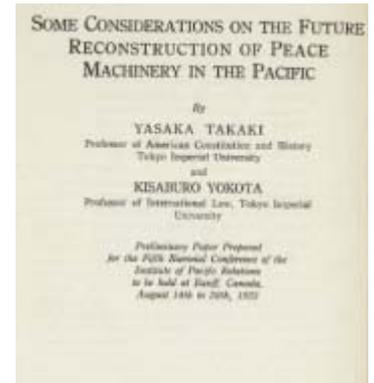
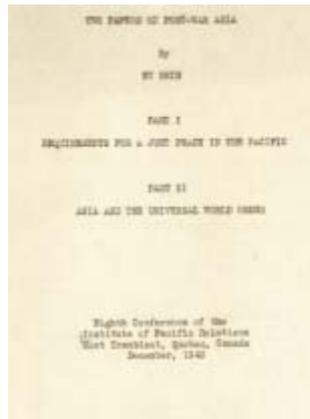
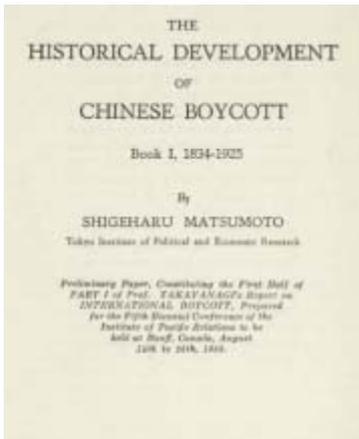
- ・都留重人
- ・丸山眞男
- ・辻清明
- ・高木八尺
- ・沢柳政太郎
- ・横田喜三郎
- ・高橋亀吉
- ・松本重治
- ・尾崎秀実
- ・荒木光太郎
- ・藤林敬三
- ・森本厚吉
- ・那須皓
- ・大川一司
- ・志立鉄次郎
- ・山崎直方



第 3 回大会(京都)に提出された満州の過去と現在に関する松岡洋右のペーパー。



第 4 回大会(杭州・上海)での新渡戸稲造の講演。満州事変が勃発して1ヶ月後の大会で、愛国者であるためには国際人でなければならないと説いた。



第5回大会(カナダのバンフ)で提出された、中国における外国製品不買運動の歴史的発展に関する松本重治のペーパー。

同じく第5回大会で提出された、将来の太平洋地域における平和組織の再構築に関する高木八尺と横田喜三郎のペーパー。

第二次世界大戦中の1942年に開かれた第8回大会(カナダのモントランブラン)で提出された、戦後アジアの平和と世界秩序に関する胡適の2つのペーパー。

◆諸外国新聞報道週次レビュー Weekly Review of the Foreign Press◆

第二次大戦が勃発すると、チャタム・ハウスは外国調査・報道サービス(FRPS: Foreign Research and Press Service)を創設、諸外国の新聞報道を克明に調査し、調査結果を外務省等の政府省庁に提供しました。FRPSは本部がオックスフォード大学ベイリオル・コレッジに置かれ、歴史家のアーノルド・トインビーが組織を統括しました。FRPS創設時の外務大臣アンソニー・イーデンは以下のように述べています。

「FRPSは戦争が勃発したとき、国際問題を調査し、調査結果を政府省庁の利用に供し、外国の報道の論調と傾向を追跡、評価することを目的として設立された。……。FRPSは蔵書、スタッフ、財政面においてチャタム・ハウスから支援を得ていた。」

Weekly Review of the Foreign PressはFRPSの調査結果を提供する媒体として製作されました。1940年3月まではタイプ印刷され、以後はReview of the Foreign Pressのタイトルで印刷され、政府省庁に配布されました。外国の新聞報道だけでなく、これを補うために書籍、パンフレット、放送、個人の情報も使われ、必要に応じて、寄稿者による解説も加えられました。初号は、第二次世界大戦開戦1ヶ月後の10月4日の日付のものです。10月11日の第2号からは冒頭ページに”confidential”と書かれており、政府内で機密扱いされていたことが分かります。

シリーズ A: ドイツとドイツ占領地域

シリーズ A: 枢軸国の影響下にあるヨーロッパに関する覚書

シリーズ B: ヨーロッパの中立国と近東

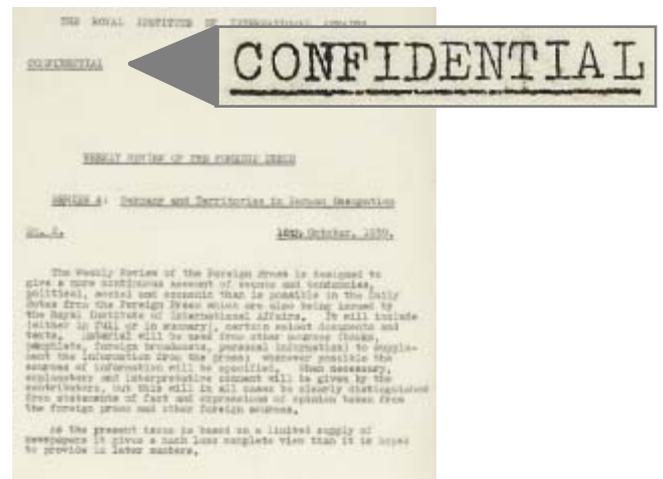
シリーズ C: 南北アメリカ、ソ連、極東

シリーズ D: ヨーロッパの連合国と占領地域

シリーズ E: 英連邦自治国の新聞報道のレビュー

シリーズ F: フランス

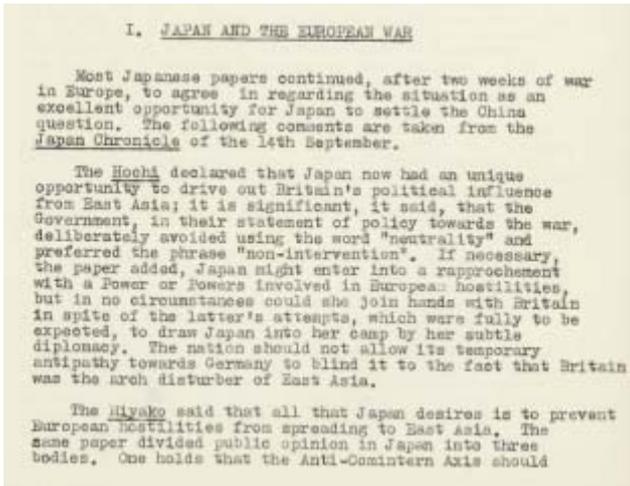
シリーズ N: 中近東



Weekly Review of the Foreign Press を検索する

1. 詳細検索画面で詳細検索画面で出版物の種類を”Conference Series”と指定。
2. ”Weekly Review of Foreign Press”を指定。

Tagged with	Publication Type	Special Publications	All Weekly Review of Foreign Press Refugee Survey
Tagged with	Country	Select a term	



ヨーロッパで戦争が勃発して2週間、ほとんどの日本の新聞は事態を日本が中国問題を解決する絶好の機会と見なすことにおいて意見の一致をみている。……

報知新聞は、日本にとって今やイギリスの政治的影響力を東アジアから取り除く機会が到来した、と述べた。……

都新聞は、日本が望むことはただ、ヨーロッパの戦争が東アジアに波及するのを防ぐことだけである。……

"Japan and the European War."
Review of the Foreign Press. Series C:
The Americas, U.S.S.R. and Far East 3 (26 Oct. 1939): 32-34.

掲載の商品・サービスに関するお申し込み、お問い合わせは、株式会社 紀伊國屋書店 データベース営業部
(電話:03-6910-0518、ファクス:03-6420-1359、e-mail:online@kinokuniya.co.jp) までお願い致します。
お預かりした個人情報は、弊社規定の「個人情報取扱方針」<http://www.kinokuniya.co.jp/06f/gaiyo6.htm> に則り、取り扱わせて頂きます。